

おだいいに!

特集

■ 整形外科

■ 東3病棟 ～入院・手術から在宅復帰へのバトンをつなぐ、多職種のチーム医療～



日本医療機能評価機構認定病院／基幹型臨床研修指定病院
公益財団法人
総合病院

浅香山病院

〒590-0018 大阪府堺市堺区今池町3丁3番16号
電話 072-229-4882(代)
<https://www.asakayama.or.jp>





いつまでも自分らしく、動ける未来へ

骨折治療から人工関節まで、 確かな技術とチーム医療で早期回復を目指します

●整形外科の診療内容

整形外科では、けがによる骨折と人工関節の診療ならびに手術を中心に行なっています。骨折は多岐にわたり、肩、手首、股関節、膝、足首に多く、それぞれに対応しています。また、高齢の方に多くみられる腰椎の骨折にも対応しています。

●整形外科の特徴

手術日を除く平日において、月・水・金曜の午前9時から午後5時までと土曜の午前9時から午後12時まで、転倒などのけがや交通事故など救急車の搬送を受け入れています。常勤医師1名、非常勤医師が2名の体制ですが、「断らない救急」を目指しています。

また、当院の強みである精神科との連携を活かし、精神疾患をお持ちの患者さまの受け入れも積極的に行なっています。



手をついた後の手首の骨折 - 橈骨遠位端骨折

橈骨遠位端骨折とは手首の骨の骨折です。高齢の方に多く、転倒した際に手を強くついて起こります。骨折部でのズレが小さければギプス固定で治る場合もありますが、ズレが大きい場合は金属製のプレートと数本のネジでしっかり固定する手術を行ないます。

骨折した部分は、何もしないとずれたり、不安定になったりすることがありますが、手術をすることで骨が安定した状態を保てるようにします。



橈骨遠位端骨折



プレート固定

転倒による股関節の骨折に注意 - 大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折

太ももの骨の股関節に近いところでの骨折です。やはり高齢の方に多く、「転倒して尻もちをついた」などで起こります。手首の骨折と違って痛みで歩くことができないため、放置しておくとなってしまう危険があります。髄内釘と呼ばれる金属製の支柱とネジで骨折部を固定することや、人工骨頭と呼ばれる同じく金属製のインプラントを骨に挿入する手術を行ないます。骨折の部位やズレの程度、骨の状態、年齢や生活状況など総合的に判断し、患者さま一人ひとりに適した手術方法を選択します。

髄内釘固定術と人工骨頭挿入術の比較

	ずい ない てい 髄内釘固定術	じん こう こっ とう 人工骨頭挿入術
手術方法	骨折部のズレを戻して固定	折れた骨の一部を人工骨頭に置き換え
対象	関節外の骨折	関節内の骨折



人工関節で取り戻す快適な生活 - 変形性膝関節症・変形性股関節症

膝や股関節の軟骨が傷んですり減り、痛みのために立つことや歩くことがつらくなる疾患です。また、進行して関節の変形が強くなるとさらに歩きづらくなり、まれに車いすでの生活になる場合もあります。

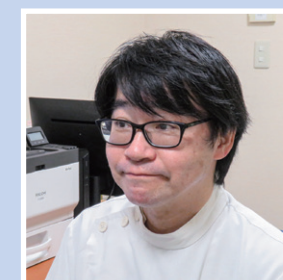
現代の医学では傷んだ軟骨を確実に再生できる良い方法がなく、人工関節に置き換える手術で痛みを取り、また歩くことができるようにします。



Doctor's Voice

現在、日本の平均寿命（0歳からの寿命の平均）は84.3歳、健康寿命（病気やけがなどなく健康に生活できる年齢）は74.1歳といずれも世界196ヵ国の中で第1位となっています。我々、整形外科医の使命は「この世界第1位の平均寿命と健康寿命の差をいかに縮めることができるか？」にかかっています。

最後まで丈夫な身体で不自由なく過ごすことができるよう、ご自身それぞれにあった一番良い方法を一緒に考えていきましょう。痛みやけがでお困りの際には是非ご相談ください。



整形外科部長
すみ とも あきら
住友 暁 医師

入院・手術から在宅復帰へのバトンをつなぐ、多職種のチーム医療

～ 外科系急性期病棟 東3病棟 のご紹介 ～

東3病棟は、整形外科をはじめ、外科や泌尿器科、眼科などの外科系疾患の手術や急性期治療を専門に担っている病棟です。入院・手術から、退院後の在宅生活までをつなぐチーム医療が特徴です。当院では認知症や精神疾患を合併している患者さまも安心して治療を受けていただけるよう、精神科医師や認知症看護認定看護師等とも連携を取れる体制が整っています。今回は、整形外科での事例をご紹介します。

チーム医療で支える 東3病棟



病棟看護師

24時間患者さまを支え
痛みや体調の変化を観察
入院中安心して過ごせる
ように毎日私たちが
側でケアします。

理学療法士

歩行練習・筋力回復・
転倒予防
毎日のリハビリを全力
でサポートします。



管理栄養士

回復を支える栄養管理
手術後、スムーズな
食事の再開ができるように
調整します。

医師

適切な診断・手術・治療
痛みのコントロールに加え、
メンタル面からも、回復へ
向けて治療を進めて
いきます。

作業療法士

日常生活動作の獲得
退院後の生活に向け
一緒に練習しましょう。



退院支援看護師/ 医療ソーシャルワーカー

入院前の生活へ戻れる
ように支援/
介護サービス等の相談
いつでも気軽に相談
して下さい。

薬剤師

薬の管理や副作用の確認
手術や治療に合わせて
お薬を調製することで、
患者さまの回復を
支えます。



当院のリハビリテーション体制と病棟連携

入院時から理学療法士や作業療法士がリハビリテーションを実施し、多職種での情報共有、退院後も見据えた生活支援を行なっています。また、急性期治療後にさらなるリハビリテーションや支援が必要となった場合は、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟へスムーズにバトンをつなぐため、他病棟とも連携しています。

東3病棟 前田師長 より 患者さま・地域の皆さまへメッセージ

東3病棟では、多職種協働のチーム医療を徹底しています。「術後合併症の予防」「早期離床」「栄養管理」「スムーズな退院支援」を入院早期から実践し、確かな連携で、患者さまの安心・安全な治療環境を提供してまいります。